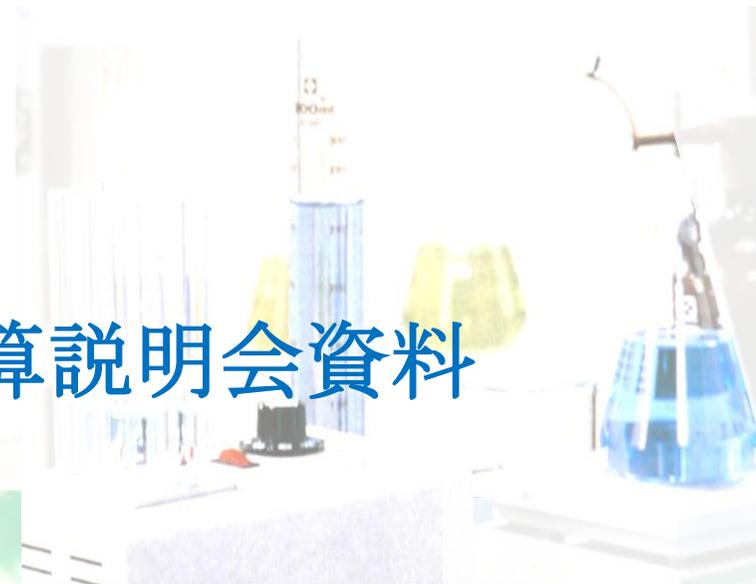




2017年3月期 第2四半期決算説明会資料



2016年11月 9日（大阪）

2016年11月10日（東京）

石原ケミカル株式会社

Ishihara Chemical Co., Ltd.

（東証二部 4462）

目次

1. 2017年3月期 第2四半期決算の概要 (代表取締役社長 時澤 元一)
2. 2017年3月期 通期業績予想 (代表取締役社長 時澤 元一)
3. 株主還元・内部留保の考え方 (代表取締役社長 時澤 元一)
4. セグメント別の営業の状況 (専務取締役 酒井 保幸)
5. セグメント別の通期業績見込 (専務取締役 酒井 保幸)
6. セグメント別の取り組み (専務取締役 酒井 保幸)

参 考 資 料

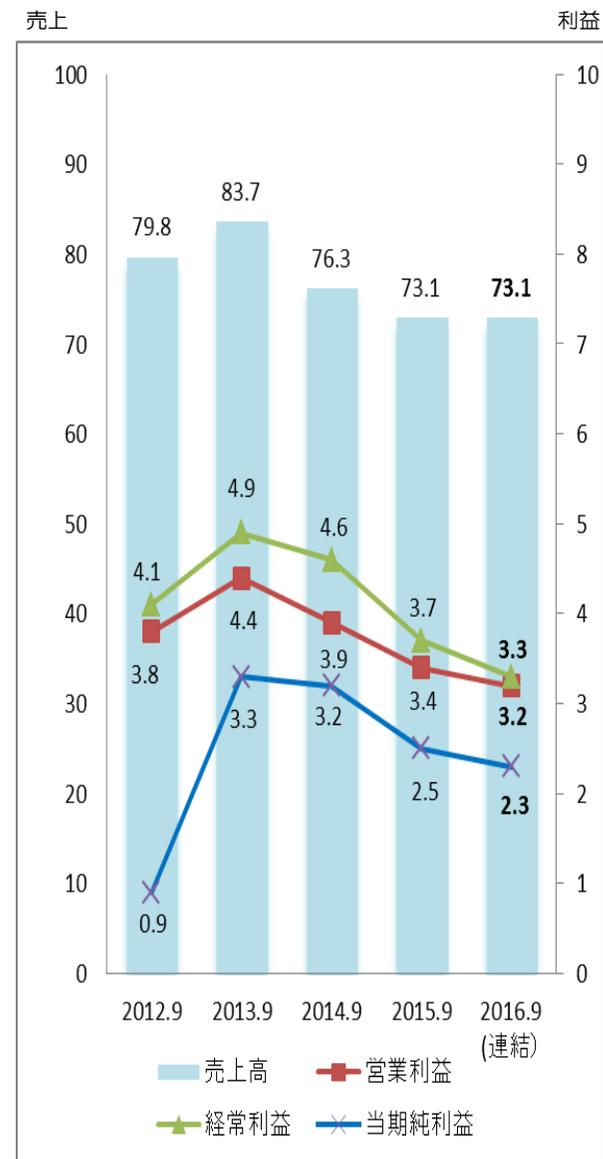
- 技術動向
- 2017年3月期 第2四半期決算短信

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想値と大きく異なる可能性があります。

2017年3月期 第2四半期(2Q)決算(連結)の概要

	2017年3月期 2Q		参考:前年同期(単体)		対前年		(単位:億円)		
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	2017年3月期 2Q		対公表値
							公表値*	構成比	
売上高	73.1	100%	73.1	100.0%	0.0%	0.0	73.6	100.0%	△ 0.7%
売上原価	52.8	72.2%	52.6	72.0%	0.4%	0.2			
販管費	16.9	23.1%	17.0	23.3%	△ 0.6%	△ 0.1			
営業利益	3.2	4.7%	3.4	4.7%	-5.9%	△ 0.2	3.2	4.3%	0.0%
経常利益	3.3	4.5%	3.7	5.1%	-10.8%	△ 0.4	3.4	4.6%	△ 2.9%
当期純利益	2.3	3.1%	2.5	3.4%	-8.0%	△ 0.2	2.3	3.1%	0.0%
							* 2016年7月公表		

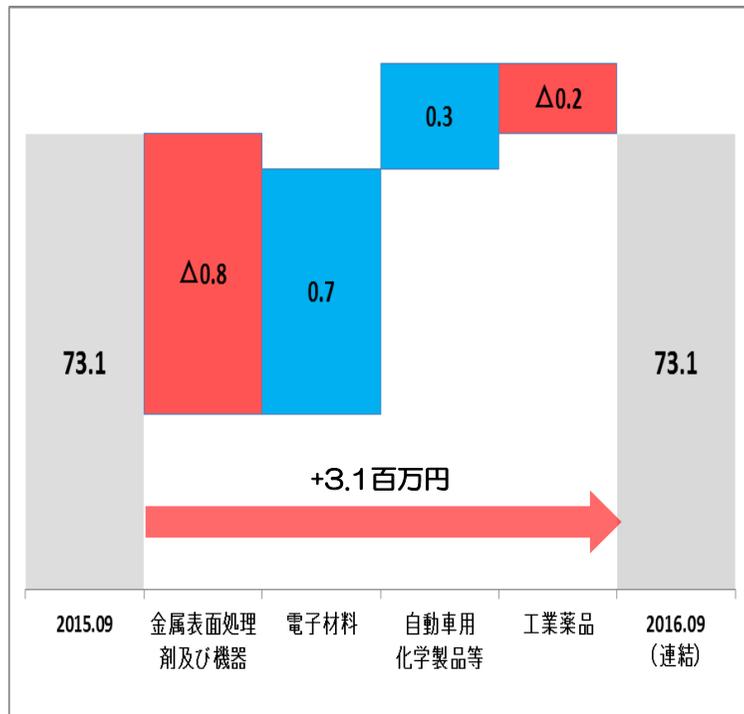
- 売上高**：電子材料・自動車用化学製品等セグメントは好調に推移したものの、金属表面処理剤及び機器等・工業薬品セグメントが、低調であったため前年並みとなった。
- 営業利益**：神戸工場の量産体制整備費用が増加したこともあり、前年同期比△5.9%の減益
- 営業外損益**：受取利息及び配当金 35百万円（前年同期 40百万円）
 為替差損（ネット）△26百万円（前年同期 △12百万円）
- 設備投資**：96百万円（前年同期 186百万円）・**減価償却費**：198百万円（前年同期 211百万円）・**研究開発費**：525百万円（前年同期 487百万円）



売上高・営業利益の増減要因

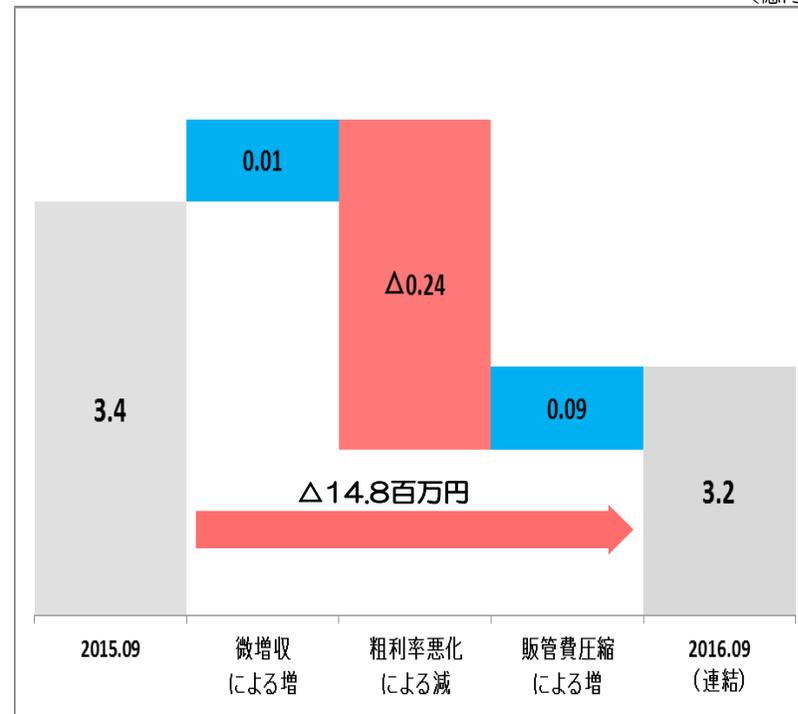
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



連結対象会社について

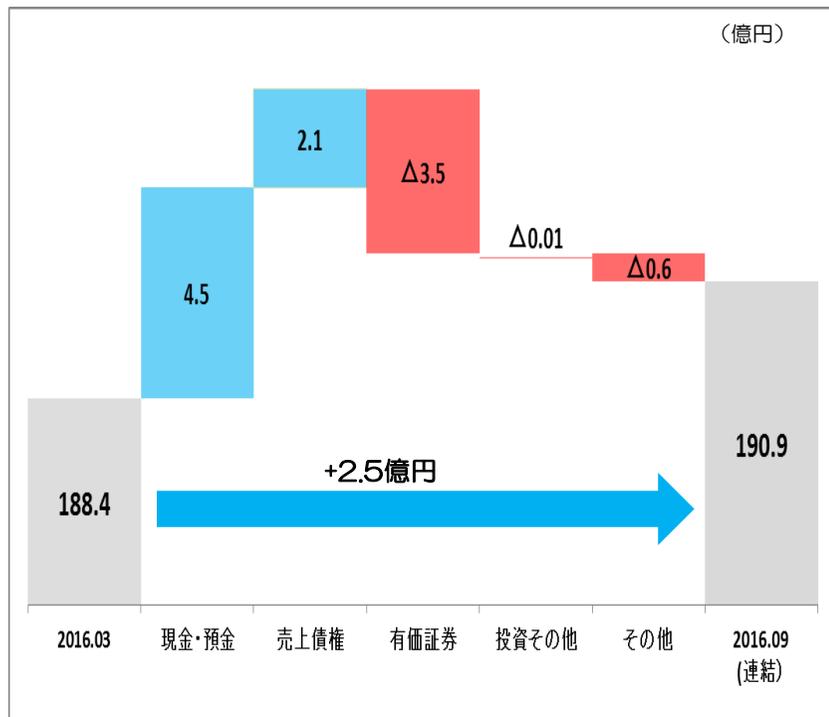
石原化美（上海）商貿有限公司（100%子会社）

- 資本金10,000,000RMB 社員数10名
- めっき薬品、自動車用化学製品等の販売
- 経営成績（2016年1月～6月）

売上高：13百万円 営業利益：△44百万円

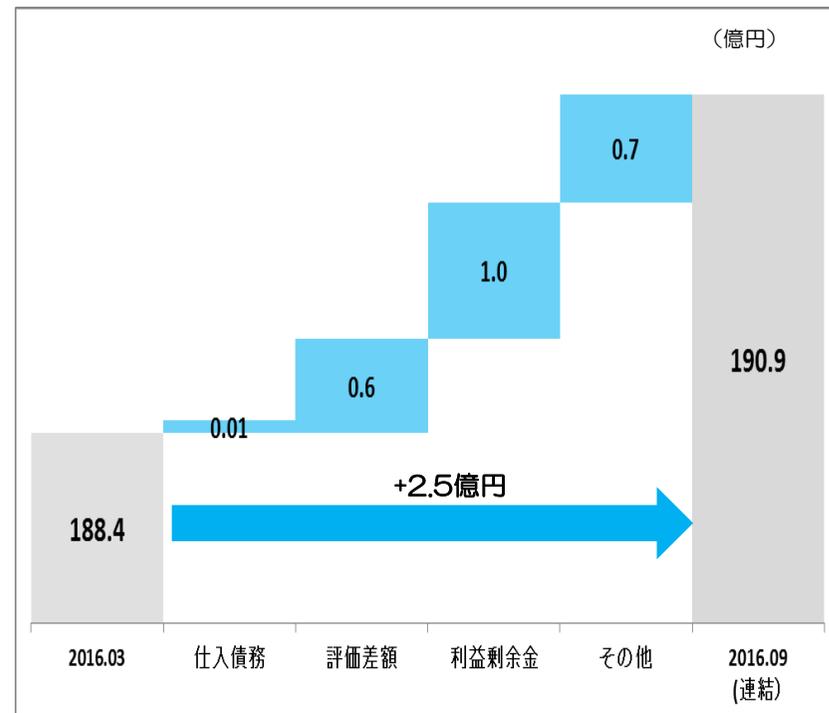
貸借対照表の増減要因

資産の部



(億円)	2016.03	2016.09 (連結)	増減
流動資産	75.2	76.1	0.9
固定資産	113.2	114.7	1.5
資産合計	188.4	190.9	2.5

負債・純資産の部



(億円)	2016.03	2016.09 (連結)	増減
流動負債	28.1	29.0	0.9
固定負債	5.4	5.7	0.3
純資産	154.8	156.1	1.3
自己資本比率	80.1%	81.1%	1.0%

経営指標の推移

	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2016/9 (連結)
総資産 (百万円)	17,430	18,292	19,222	18,849	19,092
純資産 (百万円)	13,934	14,621	15,395	15,486	15,610
1株当たり純資産 (円)	1,867.92	1,959.99	2,063.68	2,075.97	2,092.56
自己資本比率 (%)	79.9%	79.9%	80.1%	82.2%	81.8%
自己資本利益率 (%)	2.7%	4.7%	4.4%	3.5%	3.0% ※年率 換算
当期純利益 (百万円)	370	688	685	542	239

配当額の推移

	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2016/9 (連結)
一株当たり配当額 (円)	30.00	30.00	30.00	32.00	(32.00) ※予想
内中間配当 (円)	15.00	15.00	15.00	16.00	16.00
配当性向 (%)	60.3%	33.5%	32.7%	44.0%	(54.3%) ※年間 予想

研究開発費



2017年3月期 通期連結業績予想(2016年10月修正)

(2016年4月1日～2017年3月31日)

	直近見込値(2017年3月期)			修正計画(2017年3月期)			前年(単体)			対前年 増減率	対前年 増減額
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間		
	売上高	73.6	79.9	153.5	73.1	72.9	146.0	73.1	72.7		
営業利益	3.2	4.7	7.9	3.2	2.7	5.9	3.4	3.6	7.0	-15.7%	△ 1.1
経常利益	3.4	5.1	8.5	3.3	3.1	6.4	3.7	3.8	7.5	-14.7%	△ 1.1
当期純利益	2.3	3.8	6.1	2.3	2.1	4.4	2.5	2.9	5.4	-18.5%	△ 1.0
1株当たり当期純利益	30.83円		81.77円	32.13円		58.98円	34.84円		72.69円		
1株当たり配当額	16.00円		32.00円	16.00円		32.00円	16.00円		32.00円		

* 2016年7月公表

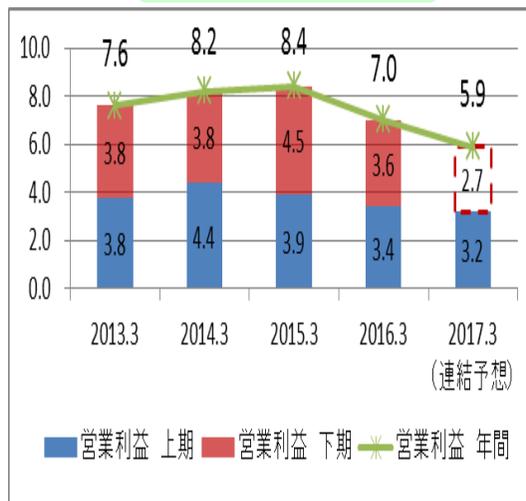
* 2015年10月公表

- ・金属表面処理剤におけるハイエンドスマートフォンの生産調整の影響が、下期においても引き続くと予測されるため、平成28年7月発表値を修正(売上高△7.5億円 営業利益△2.0億円 当期純利益△1.7億円)
- ・設備投資370百万円(前年313百万円) 研究開発費1,090百万円(前年1,012百万円) 減価償却費428百万円(433百万円)

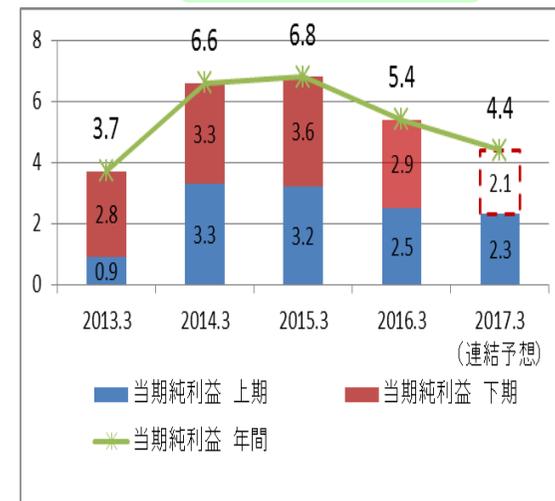
売上高



営業利益



当期純利益



株主還元・内部留保の考え方

2017年3月期の配当予定

安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案し、中間配当16円、期末配当16円の年間配当金32円を予定

株主還元の基本方針

業績に裏付けられた安定的で継続的な配当を行うことを基本としつつ、業績に応じた増配を検討するなど弾力的な還元策をはかっていく方針であります。配当に加えて自己株式取得も機動的に組み合わせて行うことにより、実質的な株主還元の一層の強化をはかります。

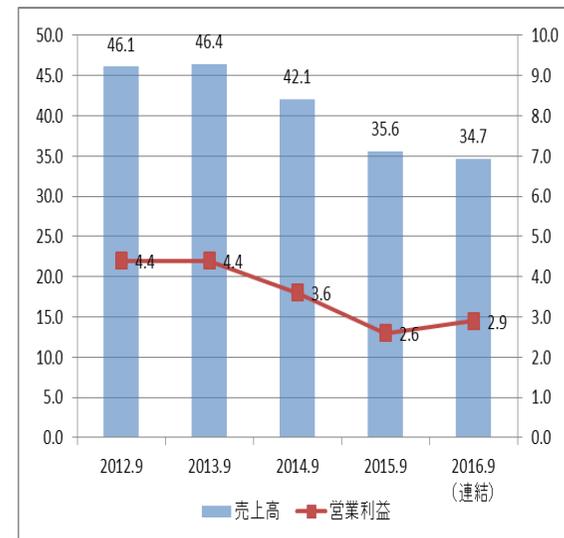
内 部 留 保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実をはかるとともに、内部留保資金の活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

セグメント別の営業の状況・通期の見通し

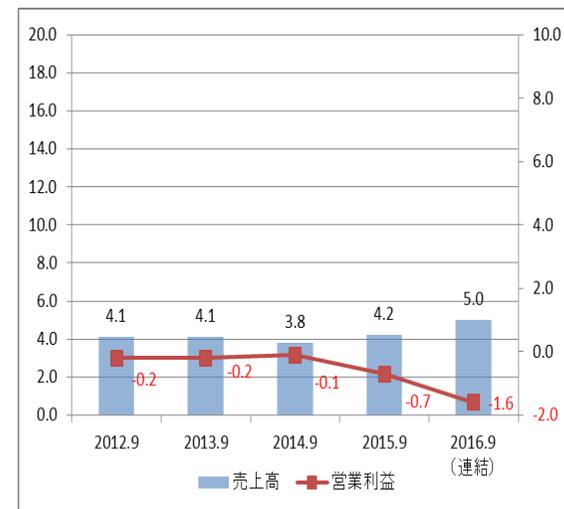
金属表面処理剤及び機器等				(単位: 億円)			
	2017年3月期 上期実績	前年(単体) 上期実績	前年比		2017年3月期 年間予想	前年(単体) 年間実績	前年比
売上高	34.7	35.6	97.5%		70.0	72.3	96.8%
営業利益	2.9	2.6	111.5%		6.3	6.8	92.6%

- ・電子部品用めっき液 : ハイエンドスマートフォン向け電子部品の生産減の影響を受け、先端電子部品用ウエハーバンプめっきを中心に前年を下回る。
- ・管理装置及び試薬 : 管理装置は、プリント基板およびタッチパネル向け市場において大口需要があり好調に推移。



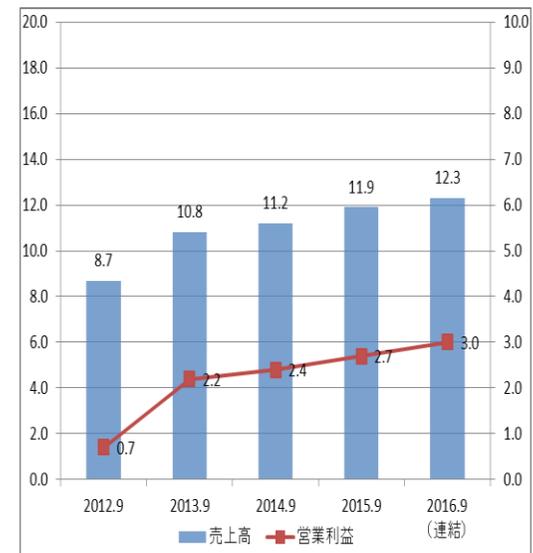
電子材料				(単位: 億円)			
	2017年3月期 2Q実績	前年(単体) 上期実績	前年比		2017年3月期 年間予想	前年(単体) 年間実績	前年比
売上高	5.0	4.2	119.0%		10.3	8.4	122.6%
営業利益	△ 1.6	△ 0.7	-		△ 3.3	△ 2.2	-

- ・ニッケル超微粉 : ユーザーの生産状況の回復により、前年を上回る。
- ・機能材料加工品 : 半導体検査器具のテストソケット用などエンプラ製品が好調に推移。
- ・セグメント利益は、神戸工場の量産体制整備費用及び新規電子材料の開発費を先行して負担していることもあり、営業赤字



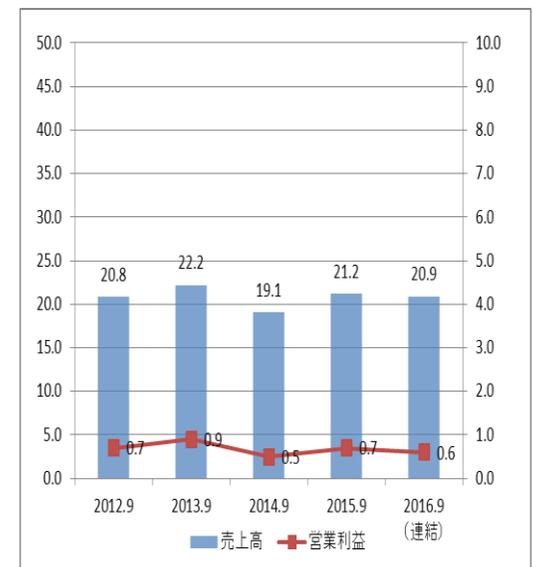
自動車用化学製品			(単位: 億円)				
	2017年3月期 2Q実績	前年(単体) 上期実績	前年比		2017年3月期 年間予想	前年(単体) 年間実績	前年比
売上高	12.3	11.9	103.4%		23.0	22.0	104.5%
営業利益	3.0	2.7	111.1%		4.9	4.3	114.0%

- ・引き続きエアコン洗浄剤が好調に推移。
- ・補修用コンパウンドの重点製品(FMC8000シリーズ、FMCマイスターシリーズ、プラチナファイナル)も好調に推移。



工業薬品			(単位: 億円)				
	2017年3月期 2Q実績	前年(単体) 上期実績	前年比		2017年3月期 年間予想	前年(単体) 年間実績	前年比
売上高	20.9	21.2	98.6%		42.7	43.0	99.3%
営業利益	0.6	0.7	85.7%		1.2	1.4	85.7%

- ・環境関連の重金属固定剤が、競合他社の価格攻勢によりシェアダウン。



セグメントごとの取り組み

● 金属表面処理剤及び機器

- ・海外市場を積極的に開拓してゆく。
- ・銅ピラーめっき液やファンアウト向け電気銅めっきの早期開発を促進する。
- ・高付加価値薬品を積極的に市場展開する。
- ・ユーザーへの迅速な対応および技術サポートの向上により差別化をはかる。

● 電子材料

- ・半導体・液晶/有機EL製造装置の業界に対応しながらも、その他需要開拓に積極的に対応する。
- ・短納期、高精度部品の特色をウェブサイトや訪問営業を通じてPRし、各市場への浸透を図る。
- ・新規電子材料の製造(神戸工場)・販売を開始する。

● 自動車用化学製品等

- ・カーディーラーの獲得および拡販によりエアコン洗浄剤を伸ばす。
- ・コンパウンドを中心に補修用製品も拡販してゆく。

● 工業薬品

- ・鉄鋼分野で基礎薬剤のシェア拡大および新規テーマの採用化を急ぐ。
- ・環境や石油化学分野での新規商材開発と新規市場開発を促進
- ・輸入商材を含めた新規商材の拡販と化学分野における新規市場開発の促進

参 考 资 料

- 技術動向
- 平成28年3月期 第2四半期決算短信

- ▶ この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- ▶ 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- ▶ なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

2016年11月

石原ケミカル株式会社

(東証二部 4462)

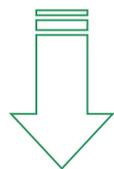
URL: <http://www.unicon.co.jp>

《技術動向》 (代表取締役社長 時澤 元一)

金属表面処理剤（めっき液）の用途：

電子部品や半導体を電気回路に接続（搭載）する目的に使用

電子製品

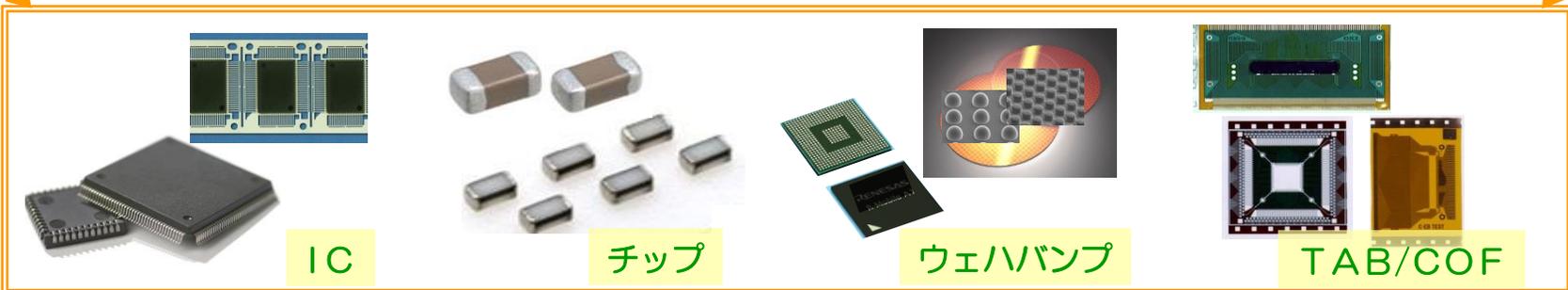


基板



銅めっき液

電子部品



めっき液



鉛フリーめっき液

中性スズめっき液

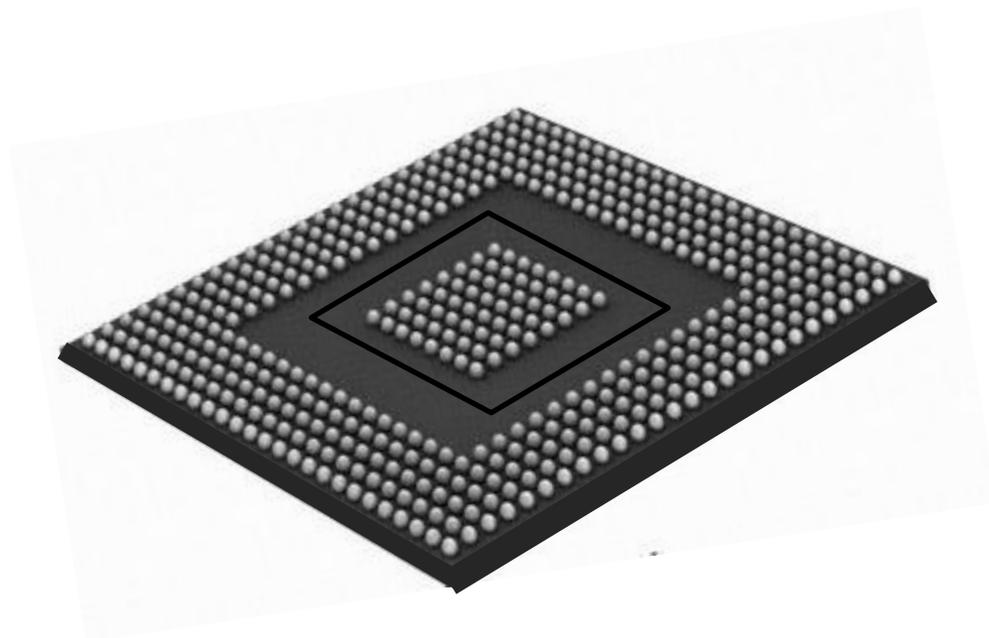
バンプ用めっき液

無電解スズめっき液

半導体パッケージ外観

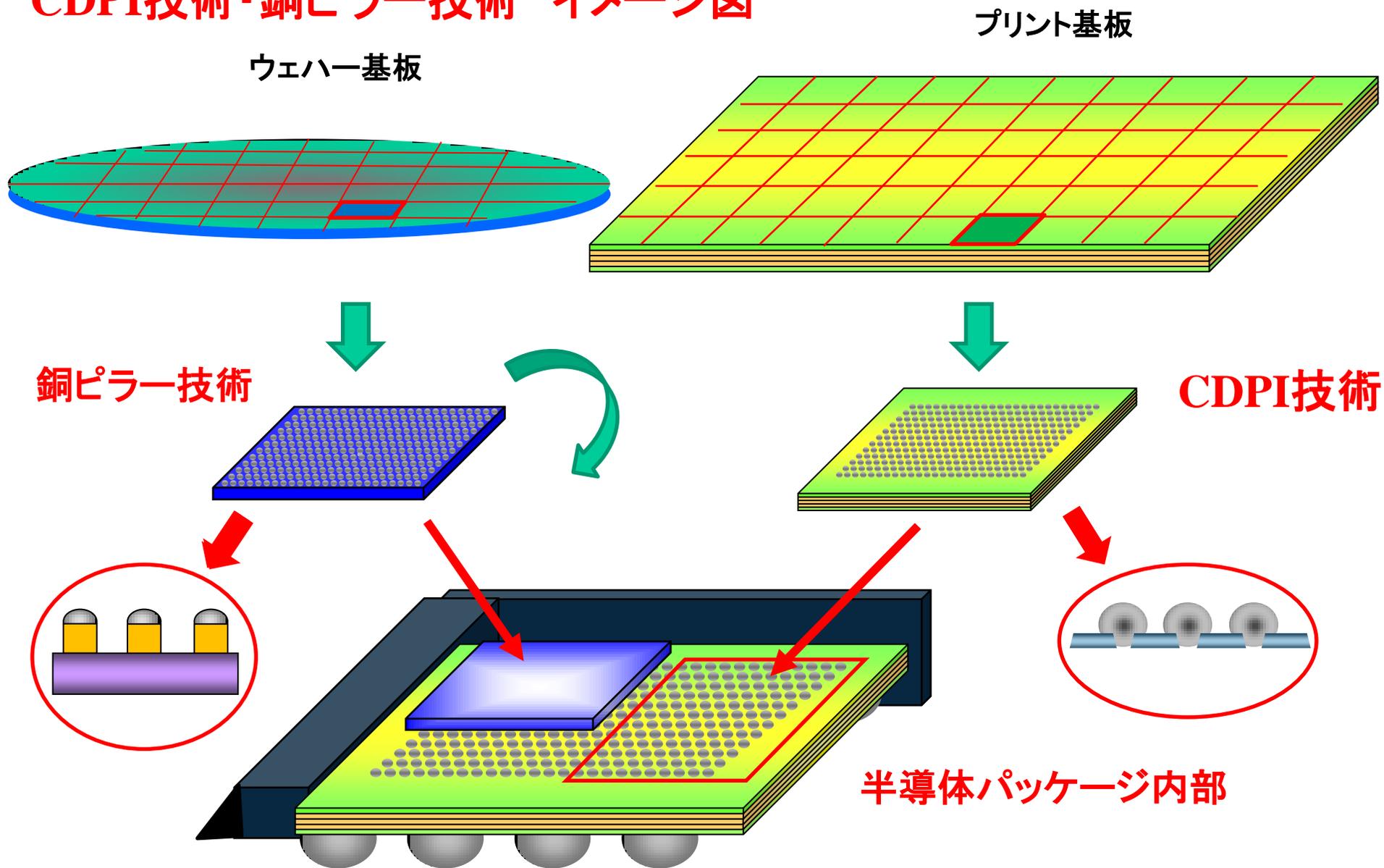


おもて面



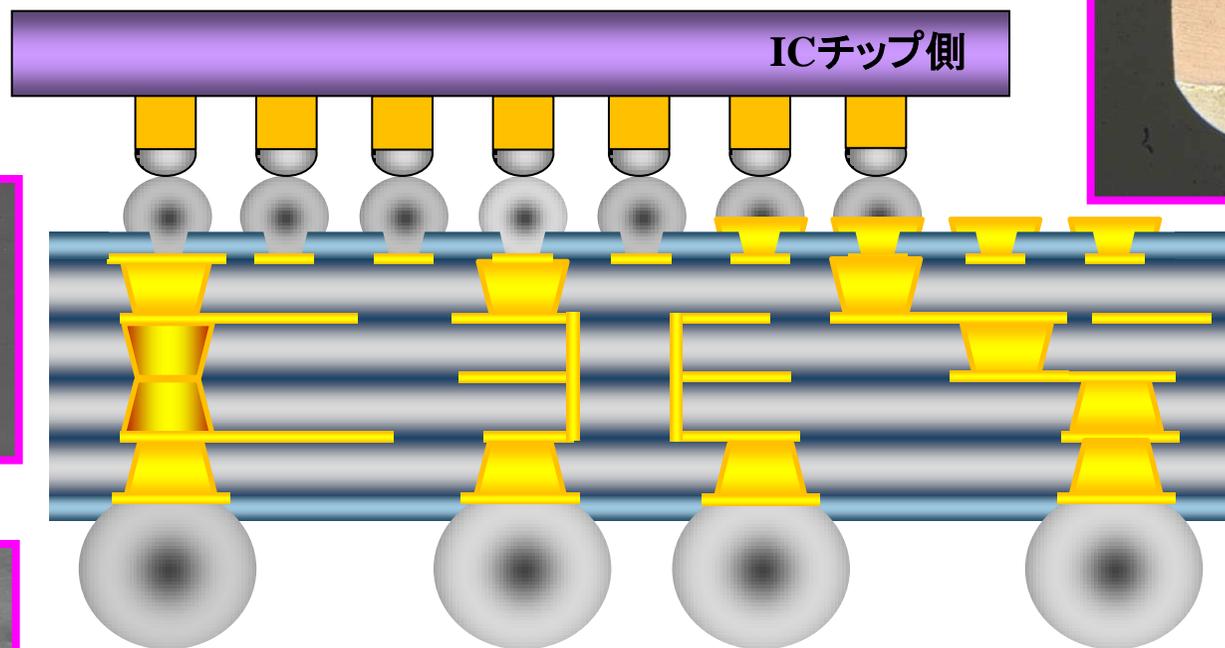
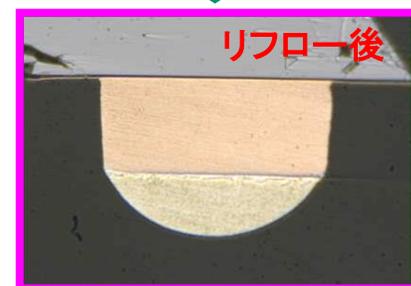
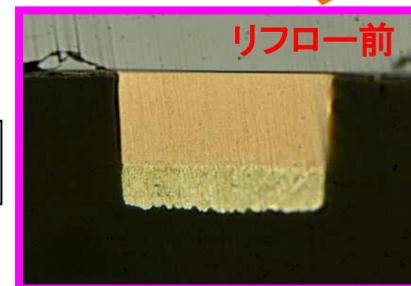
うら面

CDPI技術・銅ピラー技術 イメージ図

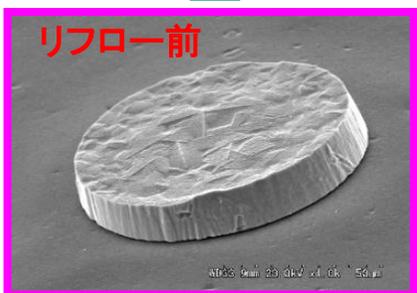
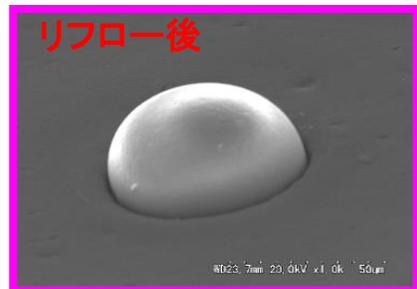


CDPI技術・銅ピラー技術 断面図

銅ピラー技術

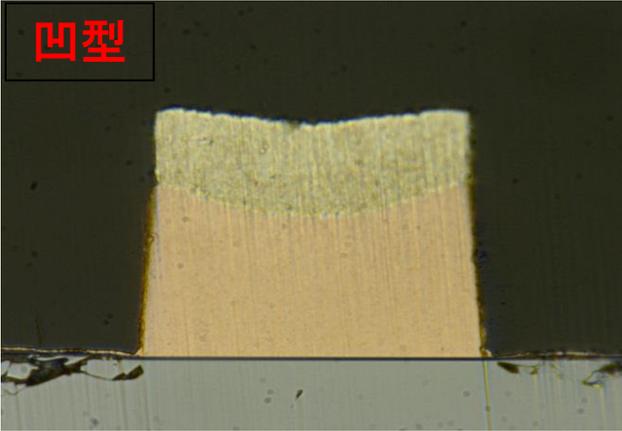


CDPI技術

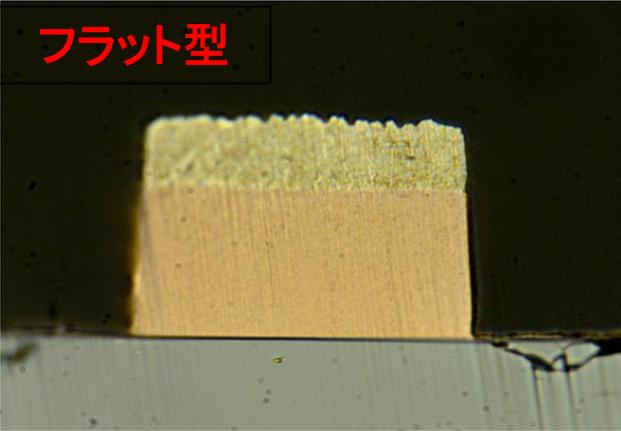


銅ピラー めっきプロセス リフロー前

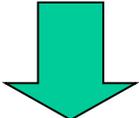
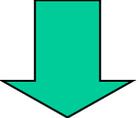
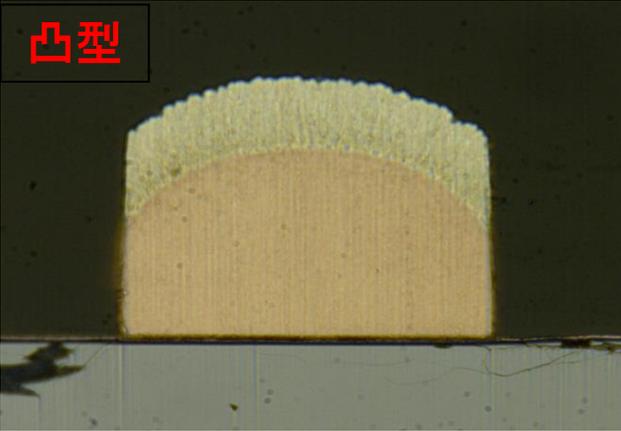
凹型



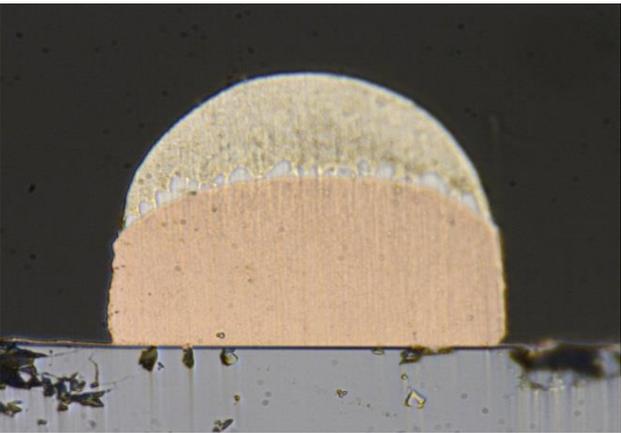
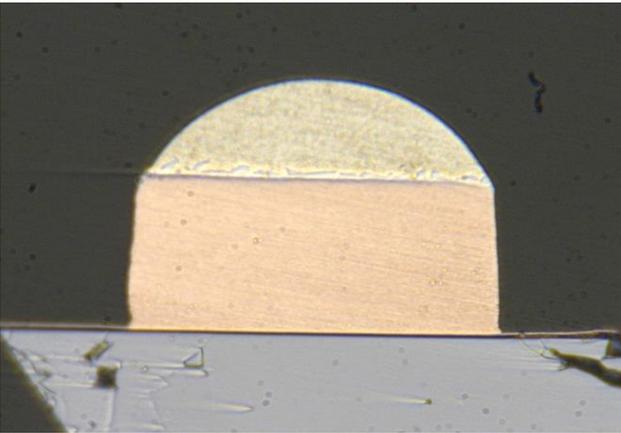
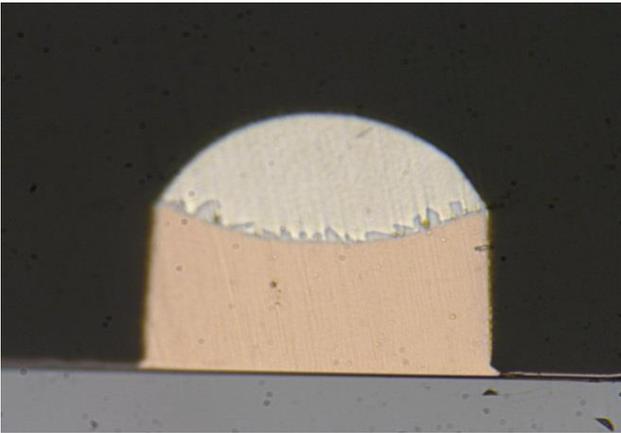
フラット型



凸型

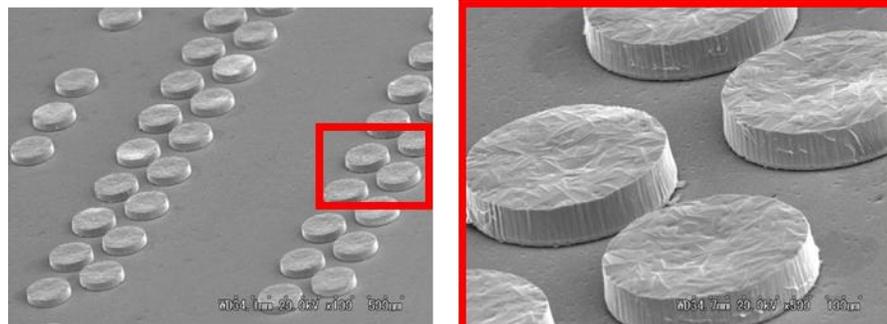


銅ピラー めっきプロセス リフロー後

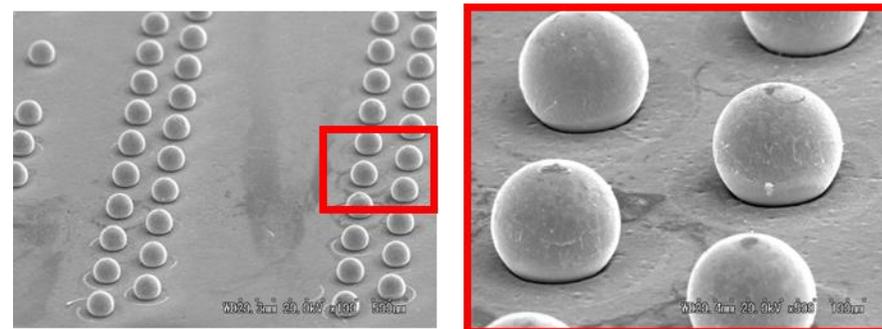


CDPI技術 めっきプロセス

リフロー前



リフロー後



25~50 μ mの突起電極をリフロー処理によりボール状に形成

《新技術・新製品開発の状況》

次世代電子回路基板への適用が期待される

導電性銅ナノインクを開発

銅ナノインクに注目して研究開発した理由は・・・

- ◎ 銅は導電性がよく配線材料に適している
- ◎ 銅はマイグレーションしにくい
(電界の影響で金属成分が非金属媒体の上や中を横切って移動する現象)
- ◎ 銅は資源的に豊富である など

さらに

インクジェットやグラビアオフセットなどの印刷法による回路形成を実用化すると

プロセスの簡略化による
コストダウン

少量多品種への対応

環境にやさしい
(廃液・廃棄物が少ない)

石原ケミカルでは銅ナノ粉からインク化まで
自社で一貫して開発を進めています

銅原料



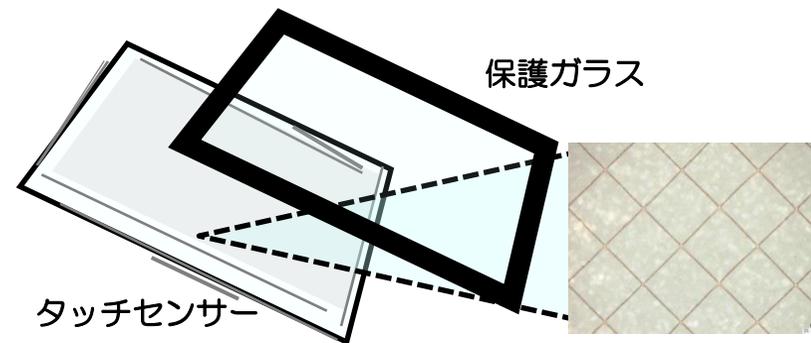
銅ナノ粉



銅ナノインク



ポリイミド基板上に導電性銅ナノインクを用いて形成した回路



タッチセンサー

PET基板上に導電性銅ナノインクを用いて形成した銅メッシュパターン（検討中）

様々なアプリケーションにおいて
配線や電極として利用が期待されています

想定されるアプリケーション



タッチパネル



LED



太陽電池



FPC



RFID